



資料4-2

愛名やまゆり園の再整備について

～「入所施設」から「地域に溶け込んで暮らせる場」へ～

令和6年11月12日
福祉部障害サービス課

1 再整備に向けて

○ 施設の課題

多床室中心の大規模施設かつ建物が老朽化している
(地域サービス棟の老朽化により日中活動の場も不足している)

○ 再整備

現利用者の居場所の確保を前提とし、
将来の社会、福祉のあり方を見据えた検討が必要

<居場所の確保>

- ・施設の小規模化は、**現利用者の居場所を必ず確保することを前提**に、例えば県自らがグループホームを設置するなど、**住まいの場を確保**する。
- ・あわせて、**現通所利用者も含め、現利用者の日中活動の場を確保**する。

2 地域に溶け込んだ暮らしの検討

○ 当事者目線の条例制定

令和5年4月施行の「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」は、障害者本人が希望する場所で、望んだ暮らしができることが基本理念



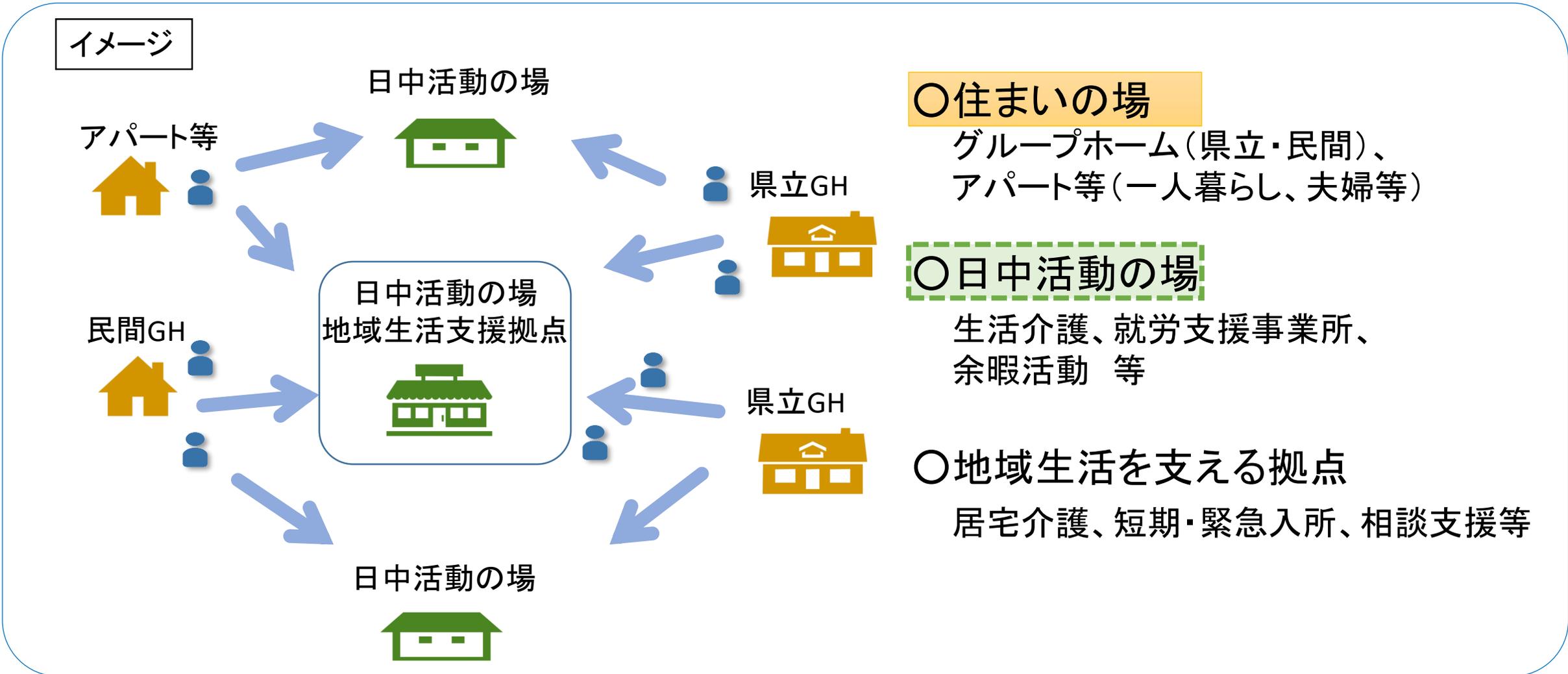
○ 再整備の内容

将来的に、

利用者の皆さんが地域に溶け込んで暮らせるようにするために、
どのようなあり方がふさわしいか、外部有識者等の意見を伺いながら、
検討を進める。

3 かながわが目指す当事者目線の障害福祉

どんな障害があっても、地域で当たり前前に暮らせる環境が整っている。



4 ご家族、園職員からの意見

(1) ご家族から

- ・再整備後に入所施設はあるのか。
- ・人の手厚い配置も考えて作ってほしい。
- ・スケジュールがないとイメージがわからない。
- ・運営法人が代わる際は、丁寧に移行してほしい。

(2) 園職員から

- ・GHからの短期利用が難しい。支給決定から見直してほしい。
- ・援護地が多数のため、圏域でやる必要がある。
- ・GHや生活介護事業所の整備は、園の再整備前にしてほしい。
- ・GHへの移行を想定すると、医療連携が欠かせない。

5 再整備（素案）

